

# 気候変動にどのように備え, 行動するのか ~IPCC総会開催都市・京都の地球温暖化対策~

DO YOU  
KYOTO?

環境にいいことしていますか?



京都府の環境マスコット  
エコちゃん

平成31年2月19日  
京都市環境政策局  
地球環境・エネルギー担当局長  
下間 健之  
SHIMOTSUMA TAKESHI



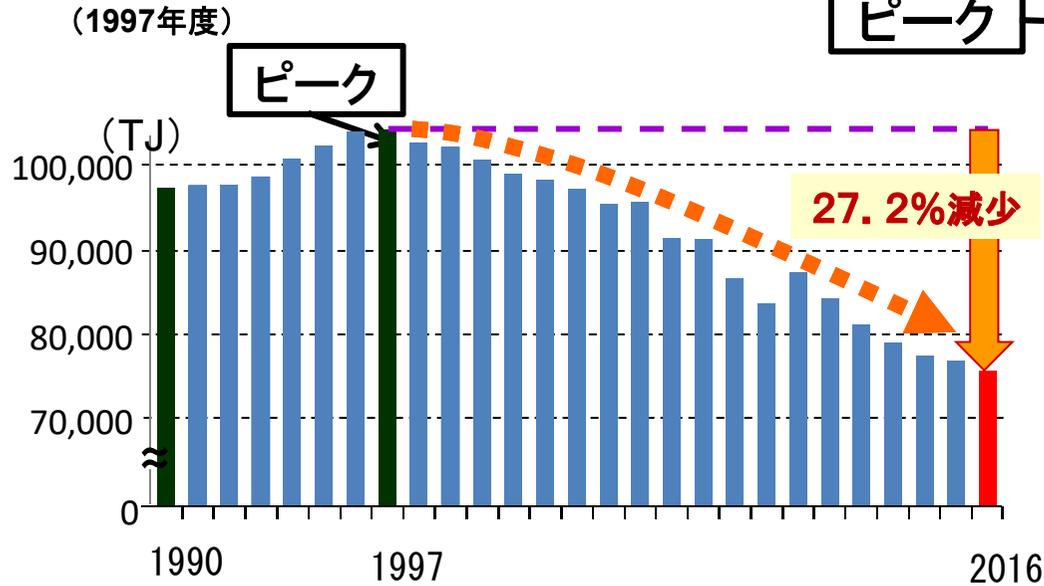
京都市はSDGsを支援しています。

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です

# 「市民力」「地域力」に支えられた環境政策 市民・事業者一丸となった省エネ，再エネ，ごみ半減！

2016年度エネルギー消費量(京都市域)は  
**ピーク時から27.2%減**



ごみ量はピーク時から  
**半減！(50%削減) 39万トンへ！**



- ◆ごみ処理コストの大幅な削減  
年間154億円削減  
2002年度：367億円  
→ 2017年度：213億円
- ◆クリーンセンター(清掃工場)  
5工場 → 3工場

【市民1人1日当たりの家庭ごみ量】  
京都市：402グラム  
政令指定都市平均※：557グラム  
(※ 2016年度の数値)

【市民協働発電制度】



太陽光発電システムを市の37施設に設置  
発電出力合計 ⇒ 約1.3メガワット  
(屋根貸し制度を含む)

## 温室効果ガス排出量 (京都市域)

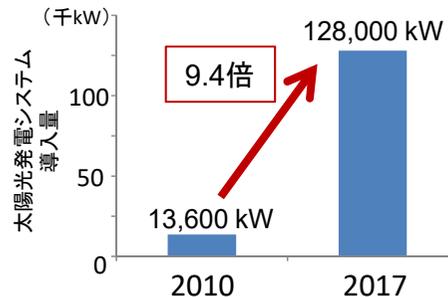
1990年度に比べて2016年度は**3.9%削減**  
(日本全体2016年度2.8%増加)

東日本大震災以降の電源構成の変化  
電気のCO<sub>2</sub>排出係数 2010年度 0.316  
→ 2016年度 0.501 (約6割増加)  
(単位:kg-CO<sub>2</sub>/kWh)

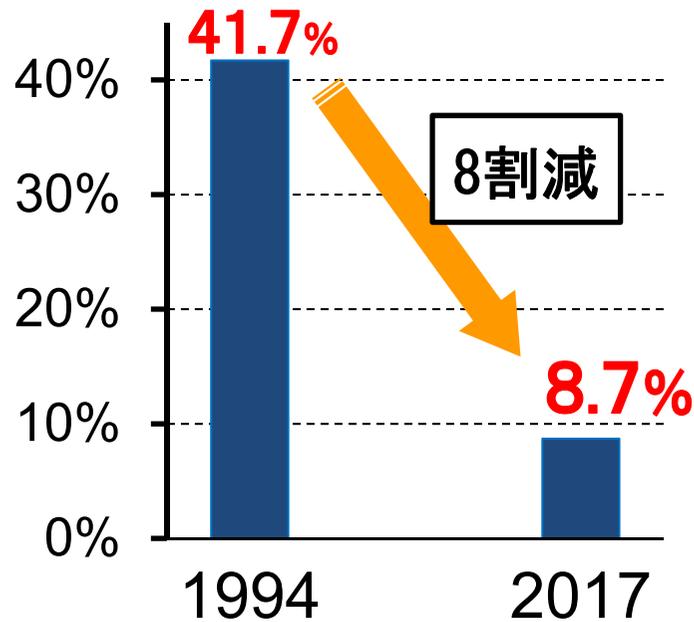
## 【再生可能エネルギーの導入の拡大】

<市内の太陽光発電システム導入量>

エネルギー戦略の  
基準年度(2010年度) 13,600 kW  
最新年度(2017年度) 128,000 kW  
**9.4倍！**

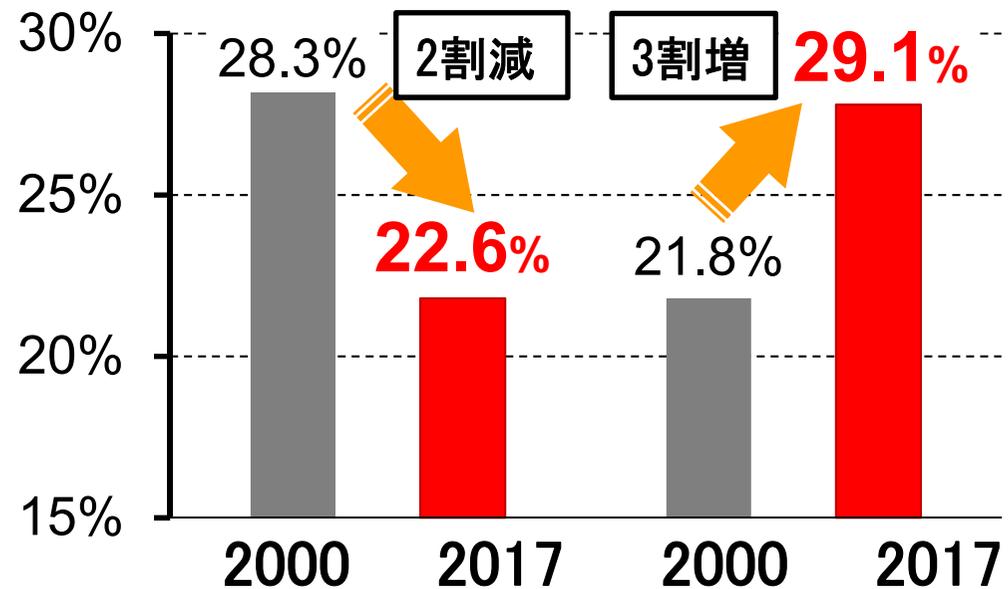


### マイカーで京都を訪れる人の割合



### 交通手段分担率

自動車      鉄道・バス



京都市のメインストリート・四条通の歩道拡幅事業  
(2015年10月完成)

「歩くまち京都」  
憲章の制定 (2010年1月)  
「歩くまち京都」  
総合交通戦略 94施策展開!  
・人が主役の魅力あるまちづくり  
・公共交通利便性向上



- ・車線数 : 4車線 ⇒ 2車線
- ・歩道幅 : 約2倍
- ・歩行者数 : 約1割増加
- ・自動車交通量 : 約4割減少



## 「パリ協定」発効（2016年11月）を受け、2017年3月に改定した京都市地球温暖化対策計画に掲げる長期的未来を見据えた戦略

### 市条例の削減目標

- ・ GHG **80%以上削減** \*
  - ・ この達成に向け、2030年度 **40%削減** \*
  - ・ 当面の目標として、2020年度 **25%削減** \*
- \* 1990年度比

### 2030年度の社会像

歩いて楽しむまち	木の文化
エネルギー地域循環	ライフスタイル
経済活動	ごみの減量

実現

推進方針(19)

具体的施策(36)

具体的取組(98)

※再掲を除く。

### プロジェクトⅢ

長期的未来(2050年以降)  
を見据えた施策

長期的未来

### パリ協定 目標

人為的排出量 **実質ゼロ**

- ★ イノベーション
- ★ ライフスタイルや社会の仕組みの転換
- ★ 担い手の育成

現在

### プロジェクトⅡ

中期的未来(2030～2040年)を見据えた施策

### プロジェクトⅠ

2020年度削減目標達成に向け着実に実施する施策

# 持続可能な都市文明の構築を目指す京都宣言 (2017年12月)

都市に**人口が集中** (陸地面積の2%に世界人口の半数)  
⇒**温室効果ガスの大排出源** (世界の炭素排出量の75%)

気候変動対策における**都市の果たすべき役割の重要性増大**

「地球環境京都会議2017 (KYOTO+20)」において  
**環境と調和した持続可能な都市文明の構築**  
を目指す**京都宣言**を発信

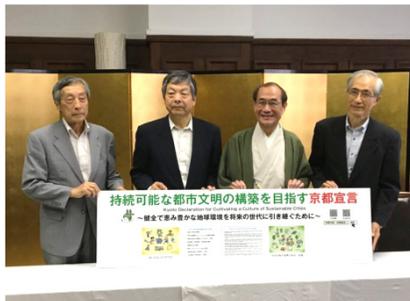


京都宣言動画

## 京都宣言に掲げる2050年の世界の都市のあるべき姿

- 自然との共生が実現している
- 価値観やライフスタイルの転換が進んでいる
- 持続可能社会構築の「担い手」が育成されている
- 技術革新, **気候変動適応策**が十分に進んでいる
- 持続可能社会の実現に向けた取組が社会問題の平和的解決に貢献している
- 循環型社会が構築されている
- 都市によるエネルギー自治が実現している
- 環境負荷低減と利便性向上が両立している

### ➤ 京都宣言の推進における連携に関する協定書締結 (2018年6月)

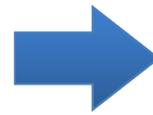


左から  
京都市環境保全活動推進協会  
高月紘理事長  
総合地球環境学研究所  
安成哲三所長  
京都市  
門川大作市長  
イクレイ日本  
浜中裕徳理事長

- 「イクレイー持続可能な都市と地域をめざす自治体協議会」 (門川大作京都市長が東アジア地域理事会議長), 「気候変動イニシアティブ」, 「世界気候エネルギー首長誓約」に参画
- 「京都市・パリ市共同宣言」 (2018年6月, 友情盟約締結60周年)
- COP24「タラノア対話」で発信と共有

# 現行計画における気候変動適応策

京都市地球温暖化対策計画に、  
適応策の基本的な考え方を記載



次期計画策定に向け、更なる具体化を検討  
(現行計画は2020年度まで)

## 基本方針

- ① 気候変動やその影響に関する科学的知見の情報収集を行う。
- ② 分野によって気候変動の影響の重大性や対策実施の緊急性が異なることを認識し、国や京都府等と連携し、効果的な対策を推進する。
- ③ 市民、事業者、各行政分野と情報共有し、理解と協力のもと、連携体制を構築する。

## 対象分野

現時点から具体的な  
対策を進める分野

自然  
災害

都市生活  
健康

水環境  
水資源

今後、気候変動の影響の把握  
や対策の検討を進める分野

農業  
林業

自然生態系

伝統文化  
観光  
地場産業

## 全庁的な連携

京都市長を本部長とする地球環境・エネルギー政策推進本部の下に2017年7月に「**適応策推進部会**」を設置。科学的知見等を全庁で共有。

## 施策の進行管理

中長期的な視点で柔軟に施策を推進。

## 情報収集

科学的知見の情報収集（近畿地域適応広域協議会、日本ヒートアイランド学会など）。指標やモニタリング等により市域における影響を把握。

京都市と京都府の協力で「**京都気候変動適応策の在り方研究会**」を組織し、京都における適応策の在り方や**適応センターの確保**に向けて議論

## 取組例



雨庭（あめにわ）



石畳風保水性舗装

市民の暮らしを守る  
～河川浸水対策  
緊急事業～

※市内380河川の  
うち、341河川を  
京都市が管理

浸水対策  
(公共下水道)

5年確率降雨対応の  
雨水整備率は約91%  
(2018年度見込、  
全国平均58%)

「100のレジリエント・シティ」プロジェクト  
(米国ロックフェラー財団)に参加する世界  
100都市の1都市に選定(2016年5月)

「京都市レジリエンス戦略」(2019  
～2040年度)を年度内に策定予定

日本経済新聞「全国市区 サステナブル度・SDGs先進度調査」(2019年1月)で京都市が首位。  
「環境」「歩くまち」をはじめ、教育、子育て支援、防災・減災等の取組を、市民との協働で、市会と車の両輪となって挑戦してきたことが高い評価。

## 京都市における レジリエンスの課題

- 1 自然災害等
- 2 人口減少
- 3 地域コミュニティを取り巻く課題
- 4 文化の伝承や活用に向けた課題
- 5 京都経済の活性化に向けた課題
- 6 空き家など住環境の課題
- 7 景観の保全・継承に向けた課題
- 8 環境共生や脱炭素社会に向けた課題

## 重点取組分野

- 1 人が育つまち  
(人口減少・少子高齢化対策 等)
- 2 支え合い、助け合うまち  
(地域コミュニティ活性化 等)
- 3 豊かに暮らせるまち  
(文化・芸術創生、経済・産業発展 等)
- 4 快適で安心安全なまち  
(景観・町並み保全・創生、空き家活用促進、防犯 等)
- 5 環境にやさしいまち (地球温暖化対策 等)
- 6 災害に強いまち  
(防災・減災、テロ対策、インフラ老朽化対策 等)

危機にしなやかに対応し、発展し続けられる「レジリエント・シティ」の実現には、都市に様々な恵みをもたらしてきた自然との共生が重要。気候変動への緩和策のみでなく、適応策等の取組を着実に実施していくことが、「環境にやさしいまち」「災害に強いまち」のみならず、他の重点取組分野を支え、京都のまちの持続可能性を高める。

## IPCC総会京都市開催記念 京都宣言発信リレー事業

絶賛実施中！

「パリ協定」の実施に不可欠なガイドライン  
(各国の温室効果ガス排出量目録の算定方法の改良報告書)  
が採択される「IPCC第49回総会」のホストシティ  
として、「パリ協定」の仕組みを支えることに貢献

IPCC総会開催を機に、  
気候変動対策に取り組む機運を  
盛り上げるための事業を  
全11行政区で実施



「持続可能な未来へ誘う、音楽の調べ」  
2018年10月13日  
@随心院(山科区)



「すまいの創エネ・省エネわくわく広場」  
2018年11月4日  
@イオンモールKYOTO(南区)



「地球環境とマンガ展」  
2018年11月17日～2019年1月15日  
@京都国際マンガミュージアム(中京区)

### 脱炭素化の実現に向けた“シンポジウム” 予告！

2019年5月、国立京都国際会館（IPCC総会会場、  
京都議定書誕生の地）にて開催予定！

IPCC京都開催  
関連情報HP

